



＜第14回＞ ミステリー、サスペンス 小説と映画

有田誠(ありたまこと) 京丹波町在住の映画愛好家。写真は、
ティファナ(メキシコ)から米国への案内板(1999年筆者撮影)。

誰が犯人かはどうでもよい
クリスティヤクロフツ、
横溝正史などの推理小説は
大好きである。しかし、
「犯人は誰か」という一点に
おいて、なぜか関係者が一
堂に会して、全容が解明さ
れるラストは読み飛ばして
しまう。

事件の発端から、それを
調査していく過程が楽しい
のである。犯人(＝答え)に
は、さして興味がない。映
画でも、このラストで、大
抵ねむたくなる。性根がね
じれているのか、犯人が嘘
を重ね、抜き差しならない
状況にどんどん落ち込んで

いくのを、面白がってしま
う。『刑事コロンボ』は、
犯人が最初からわかっている。
ピーター・フォーク
が、ネチネチと犯人を追いつ
めていく。取りようによ
っては、かなり陰湿な人間
である、コロンボは。

ナチスから逃れハリウッ
ドにきたワイルダーは、ア
メリカを代表する喜劇の監
督である。立川談志も、映
画はワイルダーさえあれば
いいと言っていた。『サン
セット大通り』(一九五五)は、
ブルに浮かんだウイリア
ム・ホルデンの死体が回
想を始めるという実にとぼ
けた始まり方をする。グロ
リア・スワンソンの一種心
理恐怖映画である。死者の
回想と言えば、マーチン・
スコセッシは『カジノ』(二
九九五)で、爆風で宙に舞っ
て殺されんとするロバート・
デ・ニーロが回想を始め
るのもある。

『深夜の告白』(一九四四)
映画でこの手のタイプの
傑作に、ビリー・ワイルダー
の『深夜の告白』やジョエ
ル・コーエンの『ファーゴ』
がある。

タのファーゴが舞台。借金
だらけの自動車販売員ウイ
リアム・メイシーが、妻を誘
拐させて、その大金持ちの
父から身代金を取ろうとす
る。いかにも残忍で頭の悪
そうな前科者二人を雇う。

一人はステイヴ・ブシ
エミ。この映画は役者にす
ごいのが並んでいる。パカ
な二人組は、警官は殺すわ、
目撃者は殺すわで、もうメ
チャクチャな重喜劇にエス
カレートしていく。暴力描
写はすさまじいが、全編を
とぼけた喜劇性で組み立て
てあるので見ていてニタニ
タしてしまう。

『深夜』は肩を撃たれた
保険外交員のフレッド・マ
クマレーが、深夜、テーブ
レコーダーで上司に数カ月
の出来事を報告する場面か
ら始まる。要は顧客の妻、
バーバラ・スタンウィック
に誘惑されて、その夫を殺
す羽目になる。例によって、
計画はどんどん狂っていく。

『ファーゴ』(一九九五)

ジョエル・コーエンは弟の
イーサンと脚本を書き、ジ
ヨエルが監督する。
『ファーゴ』はノースダコ

さて、この捜査に当たる
のが、妊婦の田舎警察署長
マージ。大きなお腹をさす
りフウフウと動きはのろい。
しかし、捜査は的確である。
演じるのは監督の妻、フラ

ンシス・マクドーマンド。
この映画で知って以来、彼
女の出演作は必ず見ている。
マージには、魚釣りをする
ぐらいで特に仕事もしてい
ない夫がいる。彼はいつも
妻に弁当を作って持たせて
やる。この二人の関係がほ
ほえましく、死体をミンチ
にするような映画を、生活
感のあるあたかなものに
している。この夫役のピー
ター・ストメアなんて、他の
作品では、凄みのある悪役
しかやらないのである。
コーエン兄弟の暴力は、
独特の知性とユーモアで包
まれている。非日常に追い
込まれた人間への観察力が
勝れている。サスペンスや
スリラーは、秀作ほど喜劇
性を帯びるのだと思う。

レイモンド・チャンドラー

『深夜の告白』の脚本はチ

ヤンドラーである。かつて
清水俊二や双葉十三郎の名
訳で人気があった作品は、
村上春樹訳に替わってしま
った。そのチャンドラーの
作品では、『大いなる眠り』
の映画化『三つ数える』(二
九四六)ハワード・ホークスと
『長いお別れ』の映画化『ロ
ング・グッドバイ』(一九七
三)ロバート・アルトマンが好
きである。『三つ』の脚
本は、何とあのウイリアム・
フォークナーである。この
作品以降、ハリウッドには
ハードボイルド映画という
ジャンルが定着する。
ローレン・バコールの自
伝『私一人』(一九八四)文春
山田宏一訳に出てくるエビ
ソードが面白い。フィリッ
プ・マローウの探偵を演じ
ているハンフリー・ボガー
ト(ボギー)がセットに来て、



『三つ数える』のハンフリー・ボガートとローレン・バコール

ホークスに「テイラーを殺
したのは誰だ」といった。テ
イラーは映画に出てくる運
転手である。この人物の失
踪がそもそもの事件の発端
である。しかし、ホークス
もだれもわからなかった。
そこでホークスは、チャン
ドラーに電報で問い合わせ
る。ところが、作者のチャ
ンドラーも「知らない」と返
事をよこしたとのこと。こ

れだけでも、「犯人は誰か」
の推理もののルールから外
れている。チャンドラーの
世界は、マローウがどう行
動するかだけを簡潔な文体
で追っていく。
『ロング・グッドバイ』は
『ナッシュヴィル』(一九七
五)とともにアルトマンの
最高作である。ここでマー
ロウを演じるのはエリオッ
ト・グールド。

の高級住宅地の守衛ケン・
サムソンは、来客にジェー
ムズ・スチュワートやパー
バラ・スタンウィックの物
真似で応じる。本来は映画
監督であるマーク・ライデ
ルがヤクザの親分を演じ、
手下にはまだ無名のシユワ
ルツネガーがいる。五千ド
ル紙幣(当時なら百八十万円
札)というのもこの映画で
初めて見た。メキシコのテ
ィファナのラストは『第三

この映画は色んな遊
びでいっぱいだ。開巻
の十五分は、決まった
キャットフードしか食
べない飼い猫のために
深夜のスーパーに買い
に行くまでを延々と描
写する。「ロング・グ
ッドバイ」というテー
マ曲を色んな編曲で演
奏者を変えて、全編に
流しつづける。マリブ

この映画があまりに好き
なので、ロス・アンジェル
スからティファナに出かけた
ことがある。しかし、それ
は二十世紀末のティファナ
で、第一次イラク戦争で砂
漠の戦車走行用に使われた
鉄板が、国境に沿って二国
を分断していた。